

地域医療を担うドクター vol.6

医療法人 貴和の会 すながわ内科クリニック



沖縄県中部医療圏人口 12 万人のうるま市に平成 18 年糖尿病・腎臓病専門クリニックとして開設された「医療法人 貴和の会 すながわ内科クリニック」院長 砂川博司先生（57 歳）にお話を伺った。

突然のお礼 慢性疾患管理に潜む救急

「『あの時、先生が病気を見つけてくれなかったら、私は生きていませんでした。本当にありがとうございました。』その言葉に、私は思い出しました。確か二年前のこと、リンパ節が腫れて硬い。私は“悪性”を疑い、沖縄県立中部病院へ紹介しました。生検結果は“悪性リンパ腫”。その後化学療法が開始され、血液内科管理となった患者さんだったのです。」「正直なところ私はその患者さんの予後については非常に厳しいと思っていました。しかし、その患者さんが目の前にいるのです。私は驚きました。県立中部病院で化学療法を受け、適合者が一人見つかり、骨髄移植が可能になったのです。医学の進歩を改めて実感すると同時に、その患者さんがわざわざお礼に来てくれたことがとても嬉しかったですね。」すながわ内科クリニック砂川博司院長は語る。

開業以来、糖尿病・腎臓病専門医として慢性病の治療管理はもちろんのこと、一次救急に対応したいと考えてきた砂川院長。「慢性疾患の管理は、裏に隠れた救急を見逃さないことがとても大切なのです。」と熱く語る。

医師として無力さを痛感 糖尿病外来の開設

砂川院長は、信州大学医学部卒業後、沖縄県立中部病院（以下 OCH）で 4 年間の臨床研修を修了、その後、宮古島の県立病院で 2 年間勤務する。先輩医師の指導のもと、全科一丸で救急医療に携わっていた OCH 研修医時代と異なり、離島の病院では、主治医である自分自身に全てがゆだねられる。時には判断に迷う患者さんがいる。家族への説明も自分でしなければならぬ。自分の無力さ・非力さを痛感する一方、医師として一人前にやっていくために、より研鑽を積み重ねなければならぬと痛感する。「そんな時です。県立宮古病院副院長から糖尿病外来の開設を促されました。嬉しかったですね。同時に、使命感と責任感で身震いました。」多くの糖尿病の患者さんを診た宮古島での 2 年間は、その後の医師生活を方向づける貴重な日々となる。

「今となっては若気の至りとしか言いようがないのですが、勉強したいという一心で、失礼を顧みず『NHK 今日の健康』に出演されていたある著名な先生に、直接ご指導を頂きたい旨相談しました。そして、その先生は快諾されたのです。」その先生とは、後の日本糖尿病学会会長松岡健平先生。当時は東京都済生会中央病院で副院長をされていた。糖尿病を勉強するために、松岡先生と渡米、その後も SDM(Staged Diabetes Management)実践へ向けて、指導を受けることになる。

厚生行政の変化と辛い選択 そして開業を決意

2 年間の県立宮古病院勤務を経て OCH へ赴任。その後 18 年間、糖尿病・腎臓病の専門医・指導医として研修医指導にあたりながら、救急医療、慢性病の治療管理を精力的にこなす。厚生行政変化に伴う紹介型病院への転換期には、内科副部長兼地域連携室室長を務める。

当時、OCH は一次から三次の救急をこなしながら、一日 1,000 人を超す外来患者の診療を行っていた。長期入院患者も 550 床のうち 100 床余を占めていた。外来患者と長期入院患者を地域医療機関へ紹介し、紹介患者を受け入れる地域医療支援病院へと転換を図ることは OCH にとっても急務であった。

「患者さんを他施設へ移すことは辛かったですね。『長年通っているのになぜ追い出さなければならないのか。』『中部病院はもう二度と診てくれないのではないか。』と不安がる患者さんの気持ちが分かっていたからです。」当時をふりかえり砂川院長は語る。“ふたり主治医制”を提案し、「これからは、中部病院の先生と開業医の先生が連携して治療にあたります。必要な時はいつでも県立中部病院を受診できます。」と、患者さんに根気強く説明する。一方、多くの外来患者や長期入院患者を受け入れてもらうために、当時の院長・副院長・看護部長・事務長とともに近隣の施設を一軒一軒訪問する。その甲斐あって、地域医療施設の協力を得、OCH を中心とした沖縄県中部地区の地域医療連携基盤が整った。



貴和の会 すながわ内科クリニック

その後、砂川院長は、OCH での診療をこなす一方、救急に対応できるだけの体力を今後維持していけるかと、自問自答するようになる。「受け入れ先の少ない慢性疾患や合併症をもった患者さんを率先して引き受け、地域から中部病院の救急体制をバックアップするという医療連携があっても良いのではないか。」と考えるようになる。OCH での勤務を続けるか、開業するか、迷いに迷った末、開業を決意。平成 18 年 3 月 1 日すながわ内科クリニックを設立する。

当時をふりかえり、砂川院長は語る。「研修医として県立中部病院の門をくぐってから約 23 年間、僻地・救急医療をリードしているという強い使命感和自負がありましたから、ともに切磋琢磨してきた仲間や先輩方との別れは辛いものがありました。」「それでもその辛さはほどなくして解消されました。年間約 800 件の紹介患者を受け入れてもらっていますが、共通の患者について、常にコンサルトできる環境にあります。OCH の 24 時間 365 日の救急体制、経験豊富な医療体制があるという心強さをいつも感じています。少し離れた場所で中部病院の外来業務、時に救急外来をさせてもらっているという気持ちです。非常にありがたいことです。」



砂川院長とスタッフ

県立中部病院との双方向の連携を維持しつつ、地域医療の向上に貢献したいと考えている砂川院長は、週に一度 OCH に向き、紹介患者の共同診療を行っている。まさに自ら提案した“ふたり主治医制”を実践中である。また、OCH 臨床研修協力施設として、研修医の受け入れを積極的に行っている。

厳しいスタッフ教育 スタッフは最大のゲートキーパー

「私は、糖尿病と腎臓病・救急に特化したクリニックを目指しています。当然職員にも、専門知識の習得と実践能力が求められます。日頃から『今できなくても学ぶ意欲と誠実さがあれば必ず伸びる。』と言っています。」と砂川院長。開業以来欠かさず続けてきた月一回の院内研修会では、OCH や地域医療機関の各専門分野の先生方、臨床心理士、経営コンサルタント等多彩な講師陣を招いている。内容も、慢性病・腎臓病の専門知識から救急対応、患者接遇、さらには、患者理解のための沖縄方言（ウチナーグチ）や対話法と、幅広い。「病気に対する不安や悩みを抱えて来院する患者様に対して、全職員が一丸となって迅速かつ丁寧な対応を行うことが大切です。職員ひとりひとりが患者さんの小さな異変を見逃さないゲートキーパーになれるように時に厳しく指導しています。」と砂川院長。すながわ内科クリニックでは開院以来 5 年間で 4 名の日本糖尿病療養指導士が誕生した。学会等への参加も意欲的で、看護研究や臨床研究にも熱心に取り組んでいる。「開業当初は、応募者が少なかったですね。採用したスタッフが、厳しい指導についてこられず辞めたらどうしようと、不安になったこともありましたが、今では、東臨床工学技士長と徳元看護主任を中心に約 40 名の職員がいます。5 年目を迎えた現在、院長を中心とした良い医療チームに育ってきたと思います。」と砂川事務長も語る。

徳元主任は「私たち看護師は、患者さんを支援するために、日頃の会話の中でどのような事に困っていらっしゃるかなど、細かな情報を得るように努めています。よりよいケアを実践する上で、家族の支援や地域施設との連携はとても大切です。」と話す。東技士長は「体組成計 InBody と循環血液量の変化をみるクリット

ラインモニターを併用して、患者さんのデータを分析しています。この二つの機器を併用すると様々な生体情報がわかります。透析患者さんの栄養指導やドライウエイト設定の場面では特に有用です。昨年県透析研究会で発表し、好評を得ました。今年は日本透析医学会総会で発表します。」と目を輝かせる。



透析室での InBody 測定

糖尿病治療の標準化 「地域医療を担うクリニック」として

糖尿病性腎症の悪化による人工透析新規導入患者数が全国ワースト 2 位の沖縄県。中部地区では、『糖尿病標準治療推進委員会』を組織し、糖尿病の“発症を減らす”“治療中断者を減らす”“合併症の進展を阻止する”取り組みを実践している。地域の専門医が中心となり、かかりつけ医を巻き込んだ日常診療における糖尿病標準治療の実践と顔の見える関係づくりが当面の目標である。「年 12 回行われる講義やスモールミーティングに参加する医師、コ・メディカルは回を重ねる毎に増え続けています。“地域の糖尿病患者さんは地域で支援する”熱意と意欲、そして連帯の輪の拡がりを実感しています。」砂川院長は、日々の診療を行いながら委員長も務めている。

最後に「人は、地域・職場・家庭の関係性の中で成長する。だから、今日も世のため、患者のため、家族のため、そして自分のために精一杯生き抜こう。」と語る砂川院長の笑顔が印象的であった。地域の医療施設がそれぞれの持つ役割を自覚し、補完し合いながら“一人の患者を診合う”ことこそ地域医療のめざすところである。その実現のために、地域医療を担うクリニックとして職員とともに成長し続けたいという熱い思いが伝わってきた。

※弊社では、糖尿病・腎臓病・救急医療に役立つ製品を多数取り扱っております。お気軽にお問い合わせ下さい。

施設名

医療法人 貴和の会 すながわ内科クリニック

場 所：沖縄県うるま市字江洲 605 番地

取 材・編集担当

アイティーアイ株式会社 営業本部 満尾・小川

福岡市博多区博多駅南 3-7-37

Tel: 092-472-1881

支店

福岡・北九州・久留米・長崎・佐世保・大村・大分・熊本・八代・鹿児島・宮崎・沖縄

営業所

山口・筑豊・佐賀・五島・天草・川内・延岡・都城・鹿屋

連絡事務所

東京・東関東・千葉・東京西